

花ちゃん・オー君・モンタ博士・フッタ博士のわくわくドット探立ててく

国立市立国立第七小学校

平成29年7月19日 NO.39 (439)

花ちゃん 「ねえねえ、夏休みの自由研究は何にするかもう決めた？」

オー君 「う～んまだ考え中。『自由研究』っていうのに、“やらない自由”はないんだよね…トホホ。」

モンタ博士 「おやおや、もうすぐ夏休みだというのに浮かない顔をして。今の時代は自由研究のヒントを集めた本やそのまま使える教材キット、インターネットの情報などたくさんあるじゃないですか。」

花ちゃん 「だから困るんです。いろいろあって迷うし、お友達とかぶったらいやだし…。」

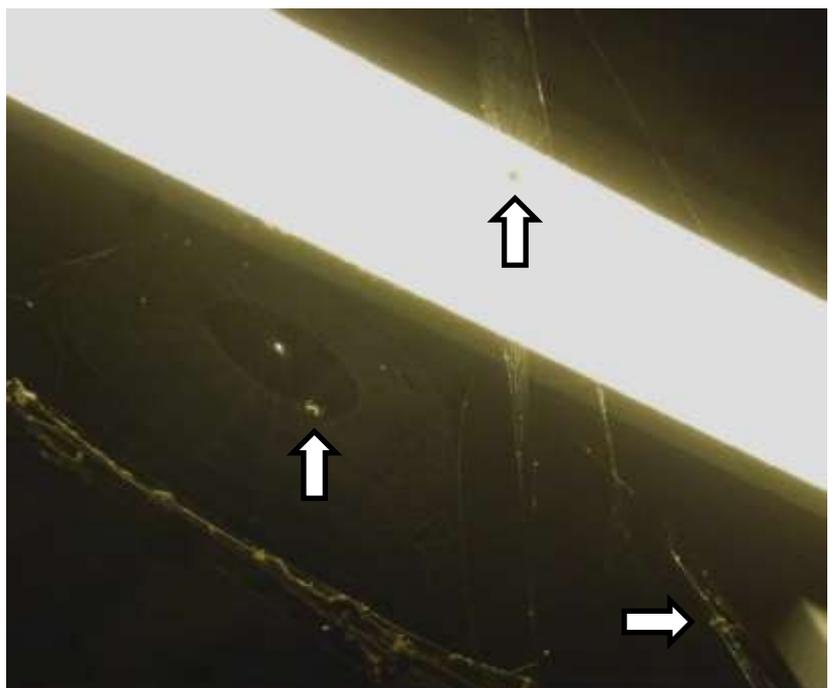
フッタ博士 「はいはい。“テーマも何もかも自由”っていう研究は、小学生の今しかできないことかも知れないよ。学者や研究者は、指導する先生や所属機関の専門分野しか研究させてもらえないからね。個人プレイじゃなくてチームで動くことが多いし、研究費用を出すスポンサーが指定してくることも。」

モンタ博士 「ふだんこの『てくてく』で見えてきたように、色々なことに興味をもって、子供ならではの柔軟な見方をするといいね。家の人にも協力してもらおう。」

フッタ博士 「では私のおすすめ。
身近で観察しやすく
てしかも友達が
やらないような
…。」

花ちゃん 「えっ、これクモの巣
ですか？」【写真・
矢印がクモ】

オー君 「夕方、せっせと巣を
作っているところ



を見かけますね。なるほど、その様子を研究するんですね。」

フッタ博士「そう。これは谷保駅で撮ったオニグモの仲間。ホームの蛍光灯【写真の白い部分】に来る虫がめあてなんだね。正式には巣じゃなくて網と呼ぶよ。たとえば、**1日コース**網ができるまでを記録する。**1週間コース**網を張る時刻と天候や気温との関係を調べる。もし取り組むなら、安全な場所で大人と一緒にね。」

オー君 「色々な種類のクモの網を調べてもおもしろそうですね。」

花ちゃん 「ちょっと気持ち悪いし、怖いっていうか、待ち伏せする性格？も暗～い感じ。」

フッタ博士「そうだね。どうしても見た目がねえ。どうやらヒトには“足の数が多すぎても少なすぎてもだめ”という感覚があるみたい。」【本や図鑑を示しながら】

オー君 「クモは8本足で、昆虫は6本足ですよ。」

フッタ博士「昆虫とは違う進化をしたんだね。自力で飛ぶ代わりに、糸を使って空間に進出していった。」

花ちゃん 「これは網の標本写真ですね。ちょっときれいかも！レース飾りみたい。」

モンタ博士「女性の研究者が考えた方法だよ。白いラッカーをクモの網にスプレーし、ボール紙を当てて貼り付けるんだそうだ。興味があれば検索してみよう。」

フッタ博士「クモの糸は細くて丈夫、意外な所で活躍しているんだよ。たとえば望遠鏡や銃などの照準器（ファインダー）にある十字線。」

オー君 「へえ、何だかクモってすごいや！でも毒グモもいるんでしょう？」

フッタ博士「どのクモでも、基本かまれたら痛いし、餌の昆虫に注射する毒はもっています。直接さわらなければ大丈夫だと思うよ。今、外来種の『ヒアリ』が話題になっているけれど、『セアカゴケグモ』*も忘れないでね。」

花ちゃん 「注意を呼びかけるパンフレットを見ると…プランターの底、室外機の裏、庭に置いた靴の中…不規則な網を張り、メスのお腹に赤いダイヤマーク…」

モンタ博士「近くの三鷹市では、マンションの植え込みや公園で発見されたよ。もし見つけたら、すぐ市役所などに大人から知らせてもらおう。安全な夏休みをすごしましょう！」



* 漢字; 背赤後家蜘蛛 英語名; Redback spider

画像は東京都 H P より